

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 198 人

② 数学 198 人

③ 英語 198 人

5 留意事項

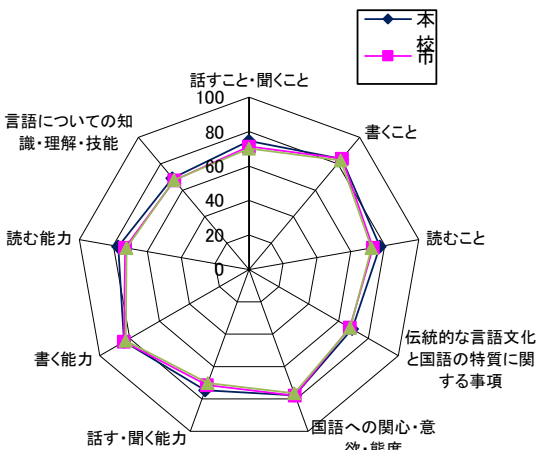
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.6	71.4	70.2
	書くこと	83.8	83.9	82.6
	読むこと	77.1	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.2	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	77.8	77.9	76.5
	話す・聞く能力	74.6	71.4	70.2
	書く能力	83.8	83.9	82.6
	読む能力	77.1	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	69.2	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

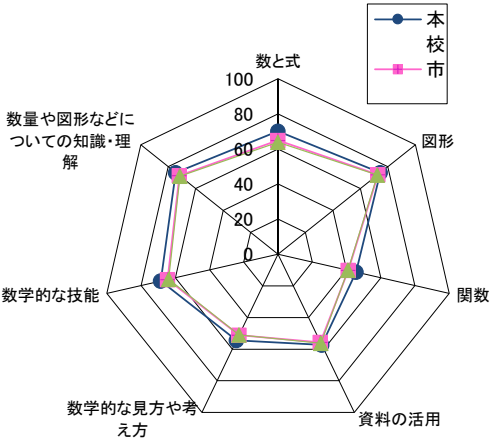
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「相手に分かりやすく伝わる表現」について理解する力を問う問題では、正答率が県や国の平均を8ポイント近く上回っている。 ●話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ問題では正答率は国の平均とほぼ同じであるが、無回答の生徒が9.6ポイントいる。	・話し合い活動では、意見交換の時間を多く設け、意見を述べることに苦手意識を持つ生徒たちが、それを参考にしながら考えられるように工夫していく。発表の場を定期的に作り、習慣づけることによって自信を持って発言できるよう支援していく。
書くこと	○書いた文章読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する力を問う問題では、県や国の平均よりも正答率が2ポイント近く上回っている。(書き加える言葉として適切なものを選択することができる。) ●伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題では、正答率が県の平均を1ポイント下回っている。(情報を用いる問題が不得意な生徒が多い。)	・意見文を書かせる際に、根拠の具体例を考えさせ、書き始める前に構成を組み立てるように指導する。(主張・根拠を明確にして書く練習を根気強く行う。) ・実際に書いた文章を生徒同士で読み合い、いいところ、改善できるところを自分たちで考えさせるようにする。
読むこと	○文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題では、正答率が県や国の平均を10ポイント近く上回っている。 ●文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ問題では正答率は県の平均を1ポイント近く上回っているものの、無回答の生徒が0.5ポイントいる。(短歌を選び鑑賞することが苦手な生徒が見られる。)	・小論文の読み取りに関しては、今後もワークシートなどを利用し、論の展開に注意させ、主張を的確に把握させる工夫を行っていく。 ・短歌や俳句の単元では、作品の解釈のみではなく、生徒たちに様々な角度から問いを投げかけ、話し合わせながら、興味関心を持たせるようにする。(空欄に言葉を埋める・いくつかの作品の共通点を見つけるなど。)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○封筒の書き方理解して書く問題では、正答率が県や国の平均を3ポイント以上上回っている。(形式を理解している生徒が多い。) ●語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する問題では、正答率は国の平均よりも0.3ポイント下回っている。(文章中の活用の仕方を理解できていない生徒も多い。)	・文法事項を指導する際には、文法そのものだけではなく、実際に自分が書いた文章の中で確認したり、新聞や小説の中の文を使って学習を進めていく。日常生活の中で使われているという意識を持たせ、文法をより身近に感じさせる工夫をしていく。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	70.1	64.9	63.8
	図形	74.5	72.8	72.4
	関数	45.6	41.1	40.8
	資料の活用	57.3	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	54.5	51.1	51.0
	数学的な技能	68.5	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	74.6	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

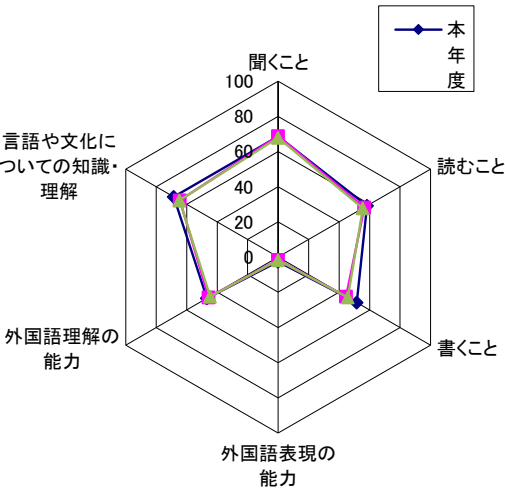
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の区分の正答率は、市や全国の正答率を5ポイント以上上回っている。特に連立二元一次方程式を解く問題や説明を読み $6n+9$ を $3(2n+3)$ に変形する理由(中央の値の3倍)について答える問題に対する正答率は、市や全国の正答率を大きく上回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると記述式問題9(2)の正答率が低い。	・今後も基本的な計算力を高めるために、既習の計算問題を取り入れたプリントを使い、授業内外で反復練習を行っていく。 ・どのように計算したかが分かるよう計算過程を書くことや、文字を使って説明することなど、数字や文字を使って表現することの大切さや重要さに重点を置き、数学的な表現力がさらに高められるよう指導を継続していく。
図形	○図形の区分の正答率は市や全国の正答率を3ポイント程度上回っている。 ●反例の意味を理解しているかを問う問題や結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし説明する問題の正答率は、市や全国の正答率をわずかに上回る程度である。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると記述式問題7(3)の正答率が低い。	・今後も図形に関する基本的な知識・理解を高める指導に重点を置きながら授業を展開していくとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・図形に関する問題の論理的思考力を高めるために、証明問題や説明問題を中心とした問題の反復練習を行っていく。
関数	○関数の区分の正答率は市や全国の正答率を5ポイント程度上回っている。特に反比例の表から x と y の関係を式で表す問題に対する正答率は、市や全国の正答率を大きく上回っている。 ●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の正答率は市や全国の正答率をわずかに上回る程度である。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると記述式問題6(2)の正答率が低い。	・基礎・基本の定着は見られるが、今後も関数に関する基本的な知識・理解を高める指導に重点を置きながら授業を展開していくとともに、授業内外で既習事項を含めた反復練習を行っていく。 ・関数を活用した問題や記述式の問題に対する理解を高めるために、式・表・グラフを多角的に捉えたり、分析したりする問題の反復練習を行っていく。
資料の活用	○資料の活用の区分の正答率は市や全国の正答率をわずかに上回っている。 ●確率を求める問題や資料の傾向を捉え、その判断理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は全国の正答率をわずかに下回っている。 ●選択式問題や短答式問題の正答率と比較すると記述式問題8(2)の正答率が低い。	・資料の活用の領域に関する問題正答率が他の領域の問題正答率と比較して全体的に低いため、1・2年生で学んだ既習事項を振り返る機会を設け、理解が深められるようにする。

宇都宮市立宮の原中学校第3学年【英語】 分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	68.6	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	58.3	56.5	55.6
	書くこと	51.5	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	2.5	1.5	1.8
	外国語理解の能力	46.8	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	68.5	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○日常的な話題について、情報を正確に聞き取る問題では、県の平均を7.9ポイント上回っている。 ●「聞くこと」の校内正答率は、市の平均を0.3ポイント下回っている。 ●ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題では、県の平均を3.3ポイント下回っている。	・リスニング問題を充実させ、聞かせる回数を増やす。特に、対話の中で、代名詞が何を指しているのかに注目させ、話の流れがつかめるようにする。 ・日々の授業でのウォームアップや導入での英語を増やしたり、ALTとのチームティーチングをさらに充実させたり、生徒が英語に触れる機会を多く設定する。
話すこと		
読むこと	○「読むこと」の校内正答率は、市の平均を1.8ポイント上回っている。 ○簡単な語句や文で書かれたものを正確に読み取る問題では、県の平均を3.4ポイント上回っている。 ●まとまりのある文を読んで、自分の意見を書く問題の正答率が16.7ポイントであった。	・引き続き、基本文・単語・連語などを繰り返し覚えさせ、多くの英文の語形・語法の理解の助けとなるようにする。 ・たくさんの長文読解問題に慣れる必要があるので、教科書以外のさまざまなジャンルの英文を読ませ、Q&AやTorFテストで大意をおさえるとともに、それに関わる細かい読み取りができるようにする。
書くこと	○「書くこと」の校内正答率は、市の平均を6.9ポイント上回っている。 ○文の中で適切に接続詞を用いる問題では、県の平均を7.2ポイント上回っている問題もあった。 ●与えられたテーマについてまとまりのある文章を書く問題では、正答率が2.5ポイントであった。	・引き続き、基本文・単語・連語などを繰り返し覚えさせ、英文を書く力の基礎を身につけていく。 ・場面に応じて肯定文・疑問文・否定文を作る練習を多く取り入れ、書く活動の充実を図る。

宇都宮市立宮の原中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、良いところがあると思いますか。」の質問に、肯定的に回答をした生徒の割合は41.4%で、栃木県の数値より8.4%、全国割合よりも12.4%上回った結果が表れている。今後も、自己を肯定的に捉え活力ある行動・考え方が深まり広がっていくように工夫していきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しては、とても当てはまる生徒の割合は県平均値よりも12.0%、全国平均値よりも21.2%高い結果が表れている。本校職員間で意識統一し指導の根幹としている「ほめて伸ばす」指導の教育的効果がしっかりと数値に結び付いていると思われる。今後も「当てはまらない」と感じている数値結果の6.6%の生徒たちにも肯定的に感じられる指導の広がり意識していきたい。

○「将来への夢や目標を持っていますか」という設問に対し「当てはまる」と回答した生徒の割合は50.5%で半分の生徒たちが将来への目標を設定していることがうかがえる。比較すると、県平均値より1.3%、全国平均値より5.6%高い結果である。今後は、中学生3年生として具体的な目標をしっかりと抱かせ、力強く日夜努力することを意識させていきたい。また、無回答及び「どちらとも当てはまらない」生徒の数値は25.3%を占めている。キャリア教育とタイアップしながら、全員が将来像を描けるように指導の工夫をしていきたい。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の設問では、99.5%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答となった。同じ設問の割合を比較しても、県平均値より2.8%、全国平均値より4.4%ほど高い数値となっている。今後もいじめ根絶に向けて家庭生活及び学校生活における意識付けを高め、100%の割合を目指す地域社会を作り上げていきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」との設問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」とし回答した生徒の割合が98.9%であった。同じ設問の割合で比較すると、県平均値より3.9%、全国平均値より4.6%高い回答になっている。将来に対する目標への強い動機付けにもなる考え方であり、「当てはまらない」と回答している1.1%の生徒も含め「社会の一員としての自分」を深く日常生活の中から意識化させていけるような関わり方を広げていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段(平日)一日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(塾や家庭教師も含める)」についての回答では、1時間以上の生徒比較をすると、本校の回答割合は72.7%で県平均値よりも2.2%低い割合となっている。全国平均値との比較では2.7%上回っているが、学習習慣の定着度合いが中学3年生スタート時点ではまだまだ低いことが読み取れる。また、「30分から1時間以内」の生徒割合では、県平均及び全国平均より高い数値が読み取れる。学習時間の確保と定着化を今後しっかりと実践化させ、日々の継続と学習時間の延長を生活の中に定着させられるように工夫させていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」の設問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」の回答が41.8%となっている。県平均値は53.1%であり全国平均値は50.6%の結果である。地域と結びつきながら、地域とともに生徒たちが関わりあう行事に参加している意識が低い結果が読み取れる。今後は地域協議会や地域学校園及び地元自治会との会合等で、互いに結びつきを深め、生徒と地域が直接的に関わりあえる活動の場面創設を発信していく必要性を感じる。

○「学校に行くのは楽しいと思います」の設問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の回答が93.4%となっている。県平均値と比較すると8%、全国平均値との比較でも11.5%高い結果となっている。本校において「当てはまらない」傾向である残り6.6%の生徒達にも、「楽しい場所」「魅力を感じる場所」として伝わるような学校を、教職員がそれぞれの力をいろいろな場面で伝えながら感じられるようにしていきたい。

宇都宮市立宮の原中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業のねらいの明確化 ・学業指導の充実 ・家庭学習の習慣化	・ねらい提示と振り返りを行う。 ・チャイム前着席や態度の指導を行う。 ・課題の提出を徹底させる。	・家庭学習の明確化は、概ね徹底できている。 ・授業に集中して学習することができている。 ・家庭学習の習慣化は、まだ不十分である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・概ね全国平均を上回る結果の中で、記述式問題への対応が課題	・「主体的・対話的で深い学び」の推進	・話し合い活動を通して自分の考えをまとめる機会を多く設定し、記述式への対応を図っていく。